

Q
42
vol. AUTUMN
2013

創る・育つ・観る ― ところ豊かな毎日。

人まち結ぶ、
北九州芸術劇場の
情報誌「Q」

◎発行：(公財)北九州市芸術文化振興財団

◎北九州芸術劇場

北九州市小倉北区室町1-1-11リバーウォーク北九州内

TEL.093-562-2655 FAX.093-562-2588

<http://www.kitakyushu-performingartscenter.or.jp>

彩の国シェイクスピア・シリーズ第28弾
ヴェニス商人

The Merchant of Venice

一作たりとも見逃せない! 残り10作品の佳境に挑む蜷川幸雄。

8月「ヴェニスの商人」の稽古場の空気は、静謐で緻密であった。外の照りつける陽射しや重苦しい大気とは一線を画したムード。そこに居るすべての人々の神経の糸は蜷川幸雄へと繋がり、氏はその螺旋の糸を感性で受けとめながら何かを探っている。半世紀以上、演劇を仕事にしてきた氏でなければ創れない、大人の現場がそこにあった。

1935年、蜷川氏は、埼玉県川口市の鋳物工場が立ち並ぶ界隈にあった蜷川洋服店の5人兄弟の末っ子として生まれる。父は仕立て職人、店は母が切り盛りしていた。小学校の頃から母に連れられオペラやコンサート、歌舞伎や文楽に通い、絵画好きな父の周りには若く無名な画家たちが出入りする家だったという。高校時代には油絵を描いたり、新劇を観始める。文学座の支持会員になり、民藝や俳優座の舞台にも通ったという。絵画か、演劇か。迷う中で東京芸大を油絵で受験した。

「で、落っこちた(苦笑)。結局、絵を描くということでは自分の中のたぎるような想いをぶつけようがなくて。それが芝居ならもう少し生理的な奇立ちや熱をそのまま反映できるかなど。そんなときに安部公房の『制服』という芝居を観たんです」と蜷川氏。斬新な舞台に強く惹きつけられ、そのプログラムの後ろにあった劇団員募集の広告を見て思い立つ。「受けてみたらこっちは受かった。それが『青俳』という劇団でした」。蜷川幸雄、19歳の春だった。

俳優になり、30代で演出家となり、その後自らの劇団から商業演劇の場へと基盤を移していく。数々の傑作を世に送り出し、「世界のNINAGAWA」と称されるようになってからもその歩みは衰えない。1998年、63歳のときには、出身地である埼玉の芸術劇場からオファーを受け、「シェイクスピア全37作品の上演」を掲げた企画『彩の国シェイクスピア・シリーズ』を手がけることに。それも今回の「ヴェニスの商人」でついにラスト10作品となった。御年77歳。未だ疾走し続ける蜷川氏の原動力は一体何なのだろう。氏の中にうごめいている変質しない「核」について問うてみた。

〔2p.へ続く〕

混沌とした時代、消滅してしまった希望を、作品の中でなら語れる。

蜷川幸雄氏インタビュー



文：道岡美千代 撮影：野坂茉莉絵

小劇場の俳優からスタートし、演出家から商業演劇の世界へ。さらに海外へと羽ばたき、現代日本を代表する演出家の一人として、世界中から注目を集める存在となった蜷川幸雄氏。77歳を迎えた今なお新たな扉を拓こうとする原動力は何なのか。演出家として、人として。氏は何を想い、その熱を放出し、半世紀以上にわたる演劇人生を歩んできたのだろうか――



下手なくせにへりくつだけは多い俳優だった。

蜷川 入った当初から、「俳優だから裏方はやらない」とか下手なくせにへりくつだけが多くて、貴族俳優」とあだ名がつくくらい小生意気な俳優でした。当時は芝居の動向なんかをよく勉強してたので、自分の劇団のやるレパートリーが恥ずかしくてね。僕は言うべきことは言い、やりたいことはやろうと決めていたのであらゆることに異議申し立てしてたんです。でも、あまりにひどい芝居しかやらないので「俺を演出家にしてくれ」と言ったら、ダメだと言われた。宇野重吉さんや芥川比呂志さんのような名優じゃなきゃ無理だよ。確かにそうだなとも思ってたんです。名優であるとか大学で演出を学んだとか、その人を信頼するためのデータが僕には全くないわけだから。それなら今の僕でもいいという人と一緒にやろうと思い、現代人劇場を創りました。

演劇の光と陰 ジャックナイフ事件と、その後。

60年代から70年代にかけて、当時の学生運動や市民運動の思想を色濃く映し出した小劇場の舞台は、ある種のアジテーションを巻き起こしたが、デモや闘争が敗北を重ねるにつれ、舞台と観客との間に奇妙な誤差が生まれ始めた。その頃、蜷川氏は新宿のある喫茶店で、若い青年にジャックナイフを突きつけられる。「あなたは今、希望を語れますか?」「俺には語るべき希望なんてひとつもないし、語らない」と氏は応えた。

蜷川 今でもこんな危なかった世の中で、希望なんて持っていたら愚かしいと思います。でも、作品の中でなら語れる。消滅した希望を作品で語るために、必死でいいものを創って届けたい。そのために今も努力しているつもりです。

演劇の影響力と創る者の覚悟を思い知らされた出来事。さらに厳然としていくアンガラへの危機感。そこからの打破を模索し、蜷川氏は商業演劇の世界へと飛び込んだ。

なと言いつづけていたんです。ところがある日、「じやや馬則し」とNINAGAWA十二夜で二緒した市川龜治郎（現・四代目市川猿之助さん）から、「こここのスケジュールが空いているので、一緒に仕事しませんか?」というメモが届いてね。彼は以前から歌舞伎の手法でヴェニスの商人を上演したいと言っていたので「それなら」スタートした。猿之助さんは、ロンドンで「十二夜」をやったときも大絶賛。いつもほとんどないアイデアが突然わき上がりて来るから、今回も楽しみです。彼も私も相手を裏切らない、いいイメージを出し合いたいという競争みたいなものもあって、その程よい緊張感が楽しいですね。

「いじましくも、妥協したくない」 ―蜷川演劇の真骨頂―

2000年には55歳以上を対象とした「ワールドシアター」や若手俳優育成プロジェクト「さいたまネクスティアター」を立ち上げ、今なお疾走、留まることを知らない蜷川氏。いいたいどこまで走り続けるのか。

蜷川 実は、僕は若い頃から面白いさねあざんコンプレックスみたいなものがあった。本当に普通の人生を真っ当に送ってきた人たちの眼差で自分の仕事を見た時に、俺の舞台は果たして耐えられるだろうか、とずっと気になっていたんです。それで、そういう人たちの劇団を創って、自分の芝居をこれまとは違う目線で照らし出してみたいと思った。そりゃあ自分よりも高層で、實際特攻隊に行つて帰ってきた人みたいな感じの、いろいろ大変です。でもやっていると、春にはついにバリ公演を果たして、劇評も大絶賛になったんです。

これからですか。あと何本やったら死ぬかな（笑）。でもまだやりたいものもあるし、今の若い人に見ておいてほしいと思う戯曲もある。60、70年代の作品は、当時の演劇を知っている俺じゃないと演出できないという幽かな目もあるわけですよ。歴史的背景や生きてきた痕跡が反映された作品を、聞に合うように早くやっちゃいたい。だからこの3年くらいは忙しいうね。

演出家になったばかりの頃は「人に認められない、認められない」というなら、認めさせやういだけだろと、幾つもの企画を持って劇場の扉を叩いた人になって、人のせいに出る部分と、自分の責任による部分を見定めていく作業じゃないかと思うんです。自分がよりしょうもやらないなら、黙っていい作品を創るよりしょうが無い。守り抜こうと思うものはどんなにちっちゃなことでもいじましく守り抜く。それは変わらないですね。

蜷川 ギリシヤ悲劇やシェイクスピア劇には、英語が母国語ではない我々には身近にないレトリックがたぐひんちりめられている。それをリアルで補えないかと考えたのが、舞台全体を仏語化しその中で物語が進行する。商業演劇をやり始めたころで、アンガラの仲間からは孤立。そんなとき、かつて小劇場での仕事仲間であった唐十郎から「阪神の自然の演出を依頼された」「蜷川くん、才能と仕事をしたいだけですか」というこの時の唐の言葉はその後、人を変え、国境を越え、さまざまな人々から発せられることになる。しかし、ギリシヤ悲劇やシェイクスピア作品へ取り組む中で、氏への評価は両極に分かれていた。理解されないシレンマ、評価されないことへの不信。作品への自信、苦悩の時代だった。

ギリシヤ悲劇や シェイクスピアへの挑戦。

蜷川 自分の中では、商業演劇で学んだノウハウをアンダークラウンドに持ち帰ることで活路が開けるイメージがあったんです。ところが、商業演劇に行くならアンガラには戻ってくるなど言われ、僕も意地になりました。1974年、日生劇場での「ロミオとジュリエット」が初めての作品でしたが、このときロミオを演じた市川染五郎（現・松本幸四郎）さんが実に素晴らしい。声は雄々と響き、シェイクスピアの長台詞も鮮やかに全部覚えていた。立ち幅広の初日、野に咲く白花を二本持つて客席から登場するシーンでは、どこで採ってきたのか本物の雛菊を手に見られてそのシーンが終わると、観ていた人たちが一斉に拍手を送ったんです。そこから幸四郎さんとリア王、オディプス王と3本続けてやりました。

海外では日本に比べて自分の演劇がよく理解されたと思うけど、自分にフィットしていたかと問えばそうでも無いイメージが足りなくなっていた。論理的な骨組みだけのつまらない舞台にならなかつたとき、ベニサン・ビットで「真夏の夜の夢」をやったんです。もともと別の会場でやる予定だったものが中止になって、自費での興行でした。それでも、バラの花を降らせたいから、とまったく知らないのに飯田深雪さんを訪ねて要らなくなったアートフラワーをもらったり。黒いヒール袋に細かくハサミを入れてかつらにしたり。そうやって自分たちの新しい美学を創り直した。その公演を観たプロデューサーに「一緒に仕事をしませんか?」と持ちかけられたのが再再丸でした。

いよいよ、ヴェニスの商人。

95年に武田真治主演で読売劇場大賞を受賞した「身毒丸」は、97年には315歳だった藤原竜也で再演、ロンドン公演で大絶賛を浴び、今なお再演を続けている。そしてこの作品をきっかけに98年「彩の国シェイクスピア・シリーズ」が始まる。

蜷川 シェイクスピアの若き戯曲の中でなぜか「ヴェニスの商人」だけは自分の中に違和感があつて、ずっとやら

STAGE PREVIEW

北九州芸術劇場

シダの群れ 第三弾 港の女歌手編



○出演 阿部サダヲ、小泉今日子、豊原功補、市川実和子、赤堀雅秋、末吉秀太(AAA)、佐藤銀平、永岡佑、岡田力、足立理、桜木テン、戸井田裕、吹越満、小林薫(Swan House Band) エミ・エレオノール(pf)、佐藤正治(dr) 横山英規(bs)、平田直樹(tp)、ロベルト・小山(sax)

●S席¥9500、A席¥7500 ※当席共通

■お問合せ キョードー西日本インフォメーション TEL.092-714-0159 (平日10:00～19:00、土曜10:00～17:00)

◎会員先行 10/12土 >> P.07・ ◎一般発売 10/19土

NODA・MAP 第18回公演「MIWA」



●S席¥9500、A席¥7500、サイドシート¥5500(25歳以下¥3000、要身分証提示・枚数限定) 高校生割引シート¥1000(要学生証提示・枚数限定)

*当席共通 ※サイドシート・高校生割引シート共に劇場のみ取扱

*サイドシートは客席の都合上、舞台が見えづらい可能性があります

*購入枚数制限あり:お1人様1公演につき4枚まで

◎S席・A席・サイドシートは前売終了。高校生割引シートは残席わずか。当日券取扱あり。

ラッパ屋 30周年記念 第40回公演 「ダチョウ課長の幸福とサバイバル」



○中劇場 11/16 ● 13:00 ● ¥4000

○脚本・演出 鈴木聡

○出演 おかやまはじめ、侯木謙太、木村靖司、中野順一郎 三嶋絵里子、岩崎道子、弘中麻紀、大草理乙子 /ラッパ屋石井、小林健一、ともさと衣/ 若本淳、浦川拓海、宇納佑、武藤直樹、福本伸一

◎好評発売中

STAGE PREVIEW

北九州芸術劇場

中村恩恵×首藤康之 「Shakespeare THE SONNETS」



◎好評発売中

シェイクスピアの愛の詩「ソネット」を現代の視点で読みなおし、絶賛を浴びたデュオ作品が待望の再演。繊細な感受性と豊かな芸術性を持つ2人のアーティストが創り出す空間に、デザイナー・ヨウジヤマモトによる衣裳が舞台をスタイリッシュに彩ります。

中劇場 10/20 ● 14:00 ★

○構成・演出・出演 中村恩恵／首藤康之

○振付 中村恩恵

○音楽 デルク・P・ハウブリッヒ

●一般¥4000、ユース¥2000

*ユースは、24歳以下、要身分証提示・枚数限定・劇場のみ取扱

彩の国シェイクスピアシリーズ 第28弾 ヴェニスの商人



蜷川幸雄の演出／監修で次々と話題作を披露してきたシリーズ最新作は、男性キャストのみで演じる「オールメーラー・シリーズ」による「ヴェニスの商人」。日本でも人気の高い名作戯曲を、歌舞伎俳優・市川猿之助を主演に迎えてお届けします。

◎好評発売中

ダンスダイブウィーク イデビアン・クルー「麻痺 引き出し 嫉妬」



日常の何気ない一面を巧みに切り取ったユニークなダンスが人気のイデビアン・クルーが10年ぶりに登場！今にもお芝居が始まるかのような雰囲気の中で、現代の音楽に合わせて踊り出す。斬新なようでもどこか懐かしく親しみやすい、心くすぐる新作にご期待ください。

小劇場 9/28 ● 9/29 ● 13:00 19:00 ●

○振付・演出 井手茂太

○出演 青藤美音子、菅尾なざさ、中尾留美子 村達哉、松之木天辺、原田悠、井手茂太

●一般¥3500、ユース¥2500

*ユースは、24歳以下、要身分証提示・枚数限定・劇場のみ取扱

◎好評発売中

06



未来へのきらめき ― 躍進する新世代たち ―
北九州市制50周年記念事業

TOTO 2013 北九州国際音楽祭
26th KITAKYUSHU INTERNATIONAL MUSIC FESTIVAL

26th KITAKYUSHU INTERNATIONAL MUSIC FESTIVAL



Tatsuki Narita



Dai Miyata

Masaya Soshi



野口賢一郎

Shion Minami



Ariga, Terasawa



真嶋雄大 まじま・ゆうだい

音楽評論家。ピアノや室内楽を主軸としながら「音楽の友」等の媒体各誌をはじめ、N響演奏会プログラムなどコンサートの曲目解説、CDやDVDのライナーノート等、積極的な執筆活動を続けている。またNHK-FM等への出演、コンクールの審査、朝日カルチャーや全国の放送局や音楽ホール等で、レクチャー・コンサートを行っている。著書に「ピアニストの系譜（音楽之友社）」等。監修に「新編ピアノ&ピアニスト（同）」等、公益社団法人日本演奏連盟専門員、「真嶋雄大の面白クラシック講座」主宰。

世界で活躍する 若手日本人アーティストたち

26回目を迎える北九州国際音楽祭のテーマは「未来へのきらめき―躍進する新世代たち―」。

今年も国内外のクラシック・シーンをけん引するキラ星たちが続々登場します。

その中でも、ますます活躍が期待される若手日本人アーティストについてご紹介します！

西洋音楽が日本に流入してから百有余年、日本人演奏家の水準は、西洋に追いつくどころか、対等もしくは凌駕するほどに高くなっている。今年の北九州国際音楽祭には、その代表ともいえる若手演奏家が続々登場するので、ご紹介させていただきますい。

まずはヴァイオリンの成田達輝である。ロン＝ティボー国際、エリザベート王妃国際という世界の大コンクールとともに第2位に入賞、その実力を遺憾なく周囲に示し、今年の仙台国際でも第2位に入った。成田は作品に対して真正面から向かい、しなやかな独自の感性と艶やかな美音、また鋭利としたパッションを駆使して情感の豊かな音楽を構築していく。深い嘆息から高音の煌めきまでボウイングは自在、清新な息吹と明確な輪郭に瑞々しい潤いがふくよかに滲えられている。その成田とデュオを組むのがピアノの萩原麻未である。

2010年秋、難関で知られるジュネーブ国際音楽コンクールに、日本人として初優勝したのは記憶に新しい。以降本格的に演奏活動をスタートさせ、ホテルオークラ音楽賞、出光音楽賞、新日鉄音楽賞（現・新日鉄住金音楽賞）、文化庁長官表彰などに輝いている。その懐の深い感性と抒情表現は一線を画し、粒立ちのよい打鍵、煌めくような音色、優美なカンタービレ、精彩に溢れる躍動感、作品の核心を極めようとする気迫は壮大なスケールを描いて比類ない。この2人によるベートーヴェンやストラヴィンスキー、そしてグリーグはどれほど鮮烈だろう。

そしてチェロの宮田 大の音楽は、すでに堂々たる風格に満ちている。日本音コンに優勝、ロストロボヴィチ国際チェロコンクールでも日本人初の覇者となった宮田は、齋藤秀雄メモリアル基金賞、出光音楽賞、ホテルオークラ音楽賞などを受賞、ソリストとして、室内楽奏者として充実した活動を

展開、テレビやFMなどへの露出も数多い。醸し出す音色は雑味がなく、明々と響き渡る。強靱な駆動力、自然な流れ、安定感のある音程、盤石な技巧、そして深々とした心象風景の表出は作曲家の境地を余すところなく織り上げていく。ブラームスやフランクなどの重厚な作品に、どのような対峙で臨むのか、今から楽しみである。

対して、北九州市出身の演奏家も存在感を示している。東京都交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者で北九州市民文化奨励賞受賞の双紙正哉は、22歳の若さで東京交響楽団のアシスタント・コンマスを務めた俊英だ。アンサンブル奏者としての手腕も絶大で、JTアートホール室内楽シリーズに度々登場する他、伊藤亮太郎、柳瀬省太、古川展生とのストリング・カルテット「Arco」や、ストリング・アンサンブル・ヴェガのメンバーとして積極的な活動を展開

している。同じく奨励賞に輝く南 紫音は、2005年のロン＝ティボー国際で第2位を獲得して一躍脚光を浴びた。その後桐朋学園に学びながら演奏活動を展開、実に自然なアプローチと伸びやかな美音、熱く脈を打つような鼓動、清冽な呼吸感でたおやかな音楽を構築していく。温かみのある創意や閃きが前面に押し出された彼女の音楽性は、近年ますます研ぎ澄まされてきた。2人はオープニング・ガラに登場、南は川口エリサとともにヴィヴァルディ「四季」のソリストを務める。

いずれにせよ、気鋭のアーティストが北九州国際音楽祭に参集した。どんなにか芳醇で酸郁たる音楽的感興が紡がれるのか、鶴首して待ちたい。

熱狂・興奮・新感覚！

ネマニャ・ラドゥロヴィチ プレゼンツ

“悪魔のトリル”

新世代のヴァイオリニスト、ラドゥロヴィチ率いる話題の弦楽ユニットが登場！クラシック音楽の世界において鮮烈な存在感を示す彼らの、情熱的で圧巻のステージに心を奪われることは間違いない。

実に個性的なヴァイオリニストである。長髪を振り乱し、眼光鋭く挑むような姿勢から繰り出す音楽は、明らかに伝統的なクラシック音楽の範疇を凌駕している。とはいえ、奇を衒ったり、作品や旋律を恣意的に変化させたり、ロックやポップスなどと融合させている訳ではない。あくまでラドゥロヴィチの音楽はクラシックに立脚し、その上での毅然とした自己主張が強烈なのである。

そのラドゥロヴィチは、1985年ユーゴスラヴィアに生まれた。7歳で音楽をはじめ、ザールランド州立音楽演劇大学やベルグラード大学、パリ音楽院に学んで研鑽を続けた。その後エネスク国際やハノーファー国際など5つの国際コンクールで第1位を獲得し、日本ではラ・フォル・ジュルネなどでも馴染みのヴァイオリニストとなった。

彼は恐ろしいほどに情熱的な演奏家だ。クラシック音楽の基礎や原点をきちんと学び、身に着けた上で、自由自在に飛翔する。つまりラドゥロヴィチにとって、伝統的様式や音楽のスタイルはまったく重要ではないようにもみえる。例えばバッハに対しては、モーツァルトに対しても、サラサーテに対しても、アプローチはほぼ同様であり、つまりは時代考証や作品の時代背景、成立過程などは問題ではな

く、純粋に音楽のみを追及しているのではないかと思われる解釈なのだ。これは推測であるが、ラドゥロヴィチにとって演奏するすべての楽曲はコンテンツラリーであり、すべての楽曲がたった今誕生し、それに新たな生命を吹き込んでいると理解すると、演奏にほほ得心がいくのである。一方でラドゥロヴィチは旋律線を崩して弾いたり、草書体のような奏法は決してしない。あくまでクラシック音楽への対峙は真摯であるから、却って不思議な感覚が生まれる。

ボウイングの弓圧はきわめて高く、時折ひしゃげたような、つぶれたような響きさへ顔を出すのが、それがなんとも魅力に感じられるのは、筆者もラドゥロヴィチの毒にすでに冒されているのかもしれない。

ラドゥロヴィチは、自らの音楽の理想を追求するため、自身で新ユニットを創設した。他にヴァイオリン2台、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによる弦楽4重奏で、その名も「悪魔のトリル」。大ヴァイオリニストで作曲家のタルティーニの名作からのネーミングであるが、その創作のエピソードはともかく、悪魔に魂を売ったと謳われたバグニニーばりの超絶技巧が聴けることは間違いない。ラドゥロヴィチは、聴くものを理屈抜きに高揚させる、新時代のヒーローなのかもしれない。

※公演については、P09の音楽祭カレンダーをご覧ください。

STAGE PREVIEW

東京オペラシティリサイタルシリーズ
B→C バッハからコンテンポラリーへ
田中香織クラリネットリサイタル



日本音楽コンクール優勝をはじめ、海外でも入賞歴のある実力派。ヨーロッパを中心に活躍している田中香織が贈るB→Cは、バッハ、ブラームス、ドビュッシー、ブルースなど、バラエティ豊かなプログラムでクラリネットの魅力をお伝えします。

響ホール 11/2②
15:00 ●

○田中香織(クラリネット)、河内仁志(ピアノ)
今井慎太郎(エレクトロニクス)
●一般(大学生以上)¥3000
学生(高校生以下)¥1500
※全席自由 ※当席共通 ※託児なし

■お問合せ
財団音楽事業課 TEL.093-562-3611

◎好評発売中

北九州市少年少女合唱団
第39回定期演奏会

北九州市立の合唱団として1974年に結成し、幼稚園から高校生までが活動しています。定期演奏会では1年間の集大成として、日頃の練習の成果を発表します。子どもたちの澄んだ美しい歌声をお楽しみに。

響ホール 12/15②
15:00(14:30開場) ●

○¥1000
※当日¥200増
※全席自由 ※未就学児入場可

■お問合せ
財団音楽事業課 TEL.093-562-3611

◎一般発売 10/29火

北九州国際音楽祭×響ホール
クリスマス ガラ・コンサート ～北九州市民文化賞・奨励賞受賞者を迎えて～



北九州国際音楽祭×響ホール共同企画！ベルギーからシェビーゲル弦楽四重奏団を招き、北九州市民文化賞・奨励賞受賞者を迎えてお贈りする、クリスマス ガラ・コンサート。心温まる、極上の音色をプレゼントします。

響ホール 12/21②
15:00 ●
※3時間公演

○森野由み(ヴァリン)、大西ゆか(ヴァリン)、川口さやか(ピアノ)、永野栄子(ピアノ)
【弦楽四重奏】シェビーゲル弦楽四重奏団
●一般¥3500、U-25¥2000、ペア(一般・前売のみ)¥6000
※U-25…1987年以降生まれ全て対象、要証明 ※全席自由

◎好評発売中

STAGE PREVIEW

響ホール20thシリーズ
KIRIN presents Best of Les Frères ～ベスト オブ レ・フレール～



◎会員先行 10/16水 >>P.07・ ◎一般発売 10/23火

国内外で活躍する兄弟ピアノデュオ「レ・フレール」が1台4手連弾で繰り広げる圧倒的パフォーマンス。初めて聴く方を瞬時に魅了するピアノの新しい世界、新たな驚き！ファンが投票した「あなたのレ・フレール楽曲BEST3」からのプログラムで登場します！情熱のステージ、お見逃しなく！

響ホール 2014 1/26②
15:00 ●

○レ・フレール(斎藤守也・斎藤まほ) (ピアノ)
●おとな¥5000、中学生以下¥3500
※未就学のお子様も1名につき1枚のチケットが必要です。
公演に影響があると判断された場合には
注意させていただきます。ご退席をお願いする場合がございます。
※中学生以下チケットでご入場されるお客様は、
年齢を確認させていただく場合がございます。

響ホール20thシリーズ
仲道郁代「フォルテピアノ」with 響ホール室内合奏団
～甘美なるフォルテピアノの響き～



響ホール 2014 2/23②
15:00 ●

○仲道郁代(フォルテピアノ)、響ホール室内合奏団
●指定席¥3000、自由席(一般)¥2500、自由席(U-25)¥1000、自由席(ペア・前売のみ)¥4000
※U-25…1987年以降生まれ全て対象、要証明

◎会員先行 11/12火 >>P.07・ ◎一般発売 11/19火

初共演の人気ピアニスト仲道郁代の弾き振りで、名曲が誕生した当時の音色を響ホールで再現します。

※フォルテピアノ…現代のピアノの前身となる鍵盤楽器

人まち結ぶ、
響ホールの情報誌「Q」

◎発行：(公財)北九州市芸術文化振興財団
◎響ホール
北九州市八幡東区平野 1-1-1 国際村交流センター内
TEL.093-662-4010 FAX.093-662-0100
http://www.hibiki-hall.jp/

Q
42
vol. AUTUMN
2013

未来へのきらめき
— 躍進する新世代たち —



北九州市制50周年記念事業

TOTO 北九州国際音楽祭

26th KITAKYUSHU INTERNATIONAL MUSIC FESTIVAL



北九州国際音楽祭が第26回を迎える。振り返れば1988年の創設からすでに四半世紀を数え、日本を代表する音楽祭として広く支持されていることに甘んずることなく、今年からまた新たな時代を刻んでいく。それを標榜するかのテーマは「未来へのきらめき—躍進する新世代たち—」。

音楽祭の開幕は、恒例オープニング・ガラ。北九州市所縁の音楽家を主軸にした手作りのコンサートでもある。国内外で高く評価されるトップ・アーティストたちがその華を競うが、顔ぶれが凄まじい。

N響第1コンマスの篠崎史紀をはじめとする北九州市民文化賞、奨励賞受賞者たちがずらりと並び、また北九州祝祭弦楽合奏団を構成するメンバーは日本を代表するオーケストラのコンマスや首席奏者ばかり。こんなアンサンブルは日本中どこに行ってもお目にかかることはできない。まさに快哉！加えて今回はオーディションで選ばれた若き精鋭たちも参加、一期一会の夢の競演となる。

会期となる10月、11月には多彩なプログラムの他、レクチャー・コンサートや子ど

もたちへの教育プログラム、トーク・ショー、市民参加のコンサートなどの多種多様で立体的な試みが用意されており、百年の計を見据えた主催者の見識と気概を窺わせる。

そして掉尾を飾るのが、アンドリス・ネルソンス指揮バーミンガム市響である。現在世界でもっとも注目を集めている指揮者のひとりがネルソンス。すでにバーミンガム市響との関係は5年に及び、そのコミュニケーションは秀抜で、ラトルやバレンボイムなどからも高く評価されている。オーケストラを纏め上げる力は屈指

であり、取り分け濁りのないクリアなサウンドの中で、精妙に色彩を移ろわせていく手腕は鮮やか。そこには千紫万紅たる情景が浮かび、ダイナミズムに溢れた音楽的感興が湧き上がる。2014年のシーズンからは、ボストン交響楽団の音楽監督に就任することが決まっているが、今回ブラームスをライフワークとするエレーヌ・グリモーとの共演もすこぶる愉しみだ。

ロマンと情熱が横溢する北九州国際音楽祭から、今年も眼が離せない。